

## 解答

- 問一 B  
問二 イ  
問三 ① ウ  
問四 地球に優しいと自ら感じたことを自発的に実行し、生活まで変える覚悟をするという発想を身につけた人間  
が増えること。  
問五 計算機の普及により、人々が暗算をしなくなり、計算能力が衰えること。  
問六 道徳の代行をする技術  
問七 技術が道徳の代行することによって、私たちの道徳的判断力が衰え、社会が荒廃してしまう点。

- 問八 a 自ら b 機能 c 濟(む) d (お)任(せ) e 頭脳  
問一 I イ II 力 III オ IV エ V ア  
問二 ウ  
問三 ① 実良にとって、弓道は居心地がよく、自分が賞賛され、肯定されるものだから。  
② 弓道により、仲間と同じ気持ちで目標に向かい、喜びを共感する大事さに気づいたから。  
問四 集中して無心に矢を射ていた状態。  
問五 次の矢は早  
問六 (1) 人と人がぶれ合ったところから生まれる喜び。  
(2) なんとも言えない強い(気持ち。)  
問七 ア、エ

## 解説

- 一  
問四 一線②を含む段落の内容をおさえます。「地球に優しいと」で始まる一文の内容を「道徳」、「人間としての行動の規範」、「そのような発想」と表現し、これらを身につけた人間が増えていくことが「人類の未来への希望」だと述べています。  
問五 直後に述べられている例を参考にしながら、技術の進歩により行わなくなってきたことをわかりやすく書き表します。  
問六 「これと同じだとすれば」で始まる段落の一文目に着目すると、問題文にある「道徳を技術で置き換えること」について述べていることがわかります。一線⑥の直前にある「人々の道徳心を育て、どのように判断すべきかを決めていく人間であり続けねば、社会は荒廃してしまうだろう。」という記述に、「危なさ」が表れているのであわせて説明します。

- 二  
問四 直前の部分から、実良が相手にプレッシャーをかけようと積極的に仕掛け、試合に集中していることがわかります。残りの矢の本数にも気づかない程、試合に専念していた様子がわかるように答えます。  
問六 (1) 一線⑤の後にある三人の描写に着目します。三人の重なったところが熱くなり、「喜び」を感じている様子から、後に続く「喜びって、人と」で始まる一文の内容をまとめます。  
(2) 実良の気持ちが本文中盤にある「このごろ気づいた」で始まる段落に述べられています。的に向かっていたのは自分だけではなく、春、早弥もおそらく同じ気持ちで向かっていることに気づいたとき、「なんとも言えない強い気持ちになつた。」という記述があります。